

主題
「平和を実現する人々は幸いである」マタイによる福音書5章9節

基本方針
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する

組織の課題
若い会員を増やし、意志決定機関に25%以上の若い会員を入れる

運動の課題
1.憲法改悪を阻止し、第9条を世界平和の礎にする
2.「核」廃絶と、自然エネルギー活用を推進する
3.子どもの権利を守る
4.女性への暴力の問題に取り組む

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074
東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 青木恵子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価 150円
年間購読料2,200円(送料込)
www.ywca.or.jp

YWCA 9

SEP. 2006

チャングムの成長を YWCAで実現する



金香百合 きむ かゆり

(ホリスティック教育実践研究所長/大阪YWCA会員)

私は大学を卒業後、大阪YWCAにスタッフとして就職しました。20代・30代の若き日々をYWCAで意義深く過ごし、おおいに成長させて頂いたことを感謝しています。

私は最近、NHKで放映されている韓国歴史ドラマ「宮廷女官チャングムの誓い」にはまっています。チャングムという女性の主人公が、幼くして両親を失いながらも、母の志を継いで、幾多の困難や課題をも乗り越えながら自己実現し、成長していく物語です。課題も不安も多い人生というものを、女性が自分らしく生きていくことの秘けつが満載されています。

ストーリーは亡き母の志を継いで、宮廷で王様の料理をつくる料理人になろうとする子ども時代のチャングムで幕開けします。しかし、この母は、「母の願いを選ぶかどうかはお前の決めること」と、自己決定はちゃんと子どもにあることを知っている人でした。親子の関わり、愛情の注ぎ方というものも学ばれます。

ドラマ前半は女たちの職場である調理場が舞台です。料理自体が興味深く、楽しい要素です。自然の豊かな恵みに感謝しながらのちの糧を得る、「薬食同源」という知恵が随所にみられます。

しかしなんといってもこのドラマの真骨頂は女性たちの描き方です。儒教文化の中で女性が職業を通して自己実現していくプロセスの大変さや喜び、またすばらしい女性の師匠・先輩・友人たちの存在、目立つ女への男たちの嫉妬や妨害、また性差にとらわれずに人間として彼女の夢も可能性もすべてを愛して献身する恋人の支え、それらが、次々に織り成す人間ドラマでもあります。女性を真に人間として描いて、ジェンダー問題を学ぶにもうってつけの教材です。

さてドラマの後半ではチャングムは医女(当時、男性の医師にからだを見せることのできない女性たちのために養成された女性医師)を目指します。涙ぐましい努力と実践の日々を重ねて、医術をも身につけます。そしてその医術をもって、かつての宿敵たちが権勢をふるう宮廷へとカムバックし、亡き師匠の恩に報います。ついにはその多々な

る功績を認められて、王の主治医にまでなり、母の願いよりもはるかに大きく羽ばたいていくのです。また医は仁術であるという心意気に溢れた医女養成機関のあり方も見えます。

さらに、このドラマには韓国の階級社会と身分制度の問題がドラマを織り成すもうひとつの横糸となっています。厳しい身分制度の階級に縛られ、その階級からもさらに貶められていくチャングムが、その制度を自分の実力で乗り越えていくのも見ものです。階級差別と性差別の複合差別の中を常に真理を求め、希望を失わずに生きるたくましさ。一方で、大変な悪役を演じるチェ一族の女たちもまた、その身分制度と家制度と性差別を背負う、被差別の女たちの悲しい現実をみせていて考えさせられます。

興に乗って私は「あなたのチャングム度バランスシート」をつくり、五つの要素を抽出しました。①夢・信念・スピリチュアリティ②人間力(家族・友人・師匠・ライバル・恋人)③仕事・勉強力④問題解決・回復力⑤心身のバランス・総合力から自分を見つめてみる内容です。自分を見つめるよい機会になるとの反響を頂いています。

また、彼女を支える師匠ハン・サングンのシートもこれからつくってみたいとも思っています。ハン・サングンとチャングムは深い師弟愛で結ばれ、こんな名言も残します。「チャングム、おまえはその一途さゆえにこれから多々困難に出会うだろう。私はそのおまえにふりまわされるだろう。それでいい、どこまでも一緒にふりまわされていきましよう。こんなことを言ってくれる師匠・上司に恵まれないものです。いつのまにかシニアメンバーになった私も、ハン・サングンのようでありたいと思います。

長い歴史の中で女性のエンパワーを可能にしてきたYWCA。これからYWCAが多くのチャングムを育てる「出会いと学びと相互成長の場」として2世紀目の扉を開いていくことを心から願っています。

*「あなたのチャングム度バランスシート」は3面掲載

エンパワーするNGO

武井多佳子

「共謀罪」が浮上して、市民の自由な活動にさえ、網が掛けられる厳しい時代が訪れるのかと、不安を抱く今、改めてYWCAが果たせる役割について考えてみたい。

第一は、女性のリーダーシップを育てることだ。「女が決めて行動する」これが当たり前のようである。政治を見ても経済を見ても決定権を持つところのほとんどを男性が占めてきた。憲法24条に男女平等が謳われながらも「結果の平等」に至っていないのだ。女性がリーダーシップを発揮できずして、どうして平等な社会になるのだろうか。YWCAの中で積み上げてきた経験こそ貴重だ。若い世代へとつなげていく必要性は高まっている。

第二は、草の根でネットワークすることだ。それぞれの違いを認め合い、バランスをとりながらつなげること。これが平和な世界を実現する基本である。憲法改悪の流れがつかられ、自治体では国民保護計画を策定し、戦争のできる国づくりは足元から進んでいる。20世紀から、21世紀へ希望を見出すとしたら、1でも2でもない第3の方法これが、つまり草の根のネットワークではないだろうか。地域YWCAだけでなく、世界各地のYWCAとつながり合うために、培ってきた力は生かしていける。

私たちは悲観論者になっっている場合ではない。どんな時代であろうと、ひるまず、前に進んでいかなければならない。もちろん、憲法改悪に、教育基本法改悪に、精一杯抵抗しなければならぬ。でも、その先には60年前と違う所が必ずある。そこに光を当てていこう。

5月に開かれた中央委員会では、YWCAのミッションは何かを協議したが、今こそ、平和の実現をめざすYWCAの使命を社会に発信しなければならぬ。そして、しっかりとエンパワーするNGOでありたい。(日本YWCA中委員会)



東京 YWCA

暴力を経験した女性支援の グループづくり 実践トレーニング講座

基礎編

東京YWCAでは、2006年6月から7月にかけて、「暴力を経験した女性支援のグループづくり 実践トレーニング講座 基礎編」を計4日間、開催しました。この講座は、主にドメスティックバイオレンスなどの暴力を経験した女性たちのために、安心して自分を語ることをできる場や安心して居場所をつくるための講座です。女性たちが安心してできる場をつくるためには何か必要かを具体的に学びました。

好評評でした。また、「ストレンジス視点」「サポートグループ」などの用語説明が掲載されていたので、「豆知識入りチラシ」となり、読みものとしての機能もはたすことができました。4日間の講座の中ではグループの開始期・作業期・終結期の過程におけるファシリテーターとメンバーの役割や気持ちなどをいろんな場面を想定して、徹底的な参加型ワークで学びました。「人間彫刻」という、自分たちの体を使うワークや、自分たちを創作するワークや、隣をくぐるように周りの人や、等間隔で歩き続けるワーク、自分の手をかたどった紙を使ったコラージュなど、ただ講義を聴くのではなく、形式で体験しながら学ぶことができました。学んだことはどれも奥深く、かみ砕くのにまだまだ時間がかかる

福島 YWCA

「ぶくしま原」女性9条24条の会 立ち上げに關わって

「平和を実現する人々は幸いである」(マタイ5章9節) 福島では、2003年6月にペアテ・シロタ・ゴードンさんの講演会、続いて昨年6月に映画「アテの贈りもの」の上映会を市内の女性団体と共催で開催しました。これらの出来事を通して9条と24条の切り離せない意義を学ばせていただき、市内の女性たちの間で9条と24条を共に守っていかねばならないとの認識が深まりま

らいます。特に「何をやるにも目的が大事」ということが印象的でした。講座後のアンケートでは「YWCAにサポートグループや自助グループができた場合、ボランティアとして関わりたいですか」という問いに7割の方が「そう思う」と答えています。YWCAに寄せられる社会の期待を感じます。将来の活動に夢が広がっていくようです。大きな反響を呼んだ今回の講座を生かして、女性の人権を守るための二一を発掘し、社会貢献できる活動をしていけるとうれしいです。

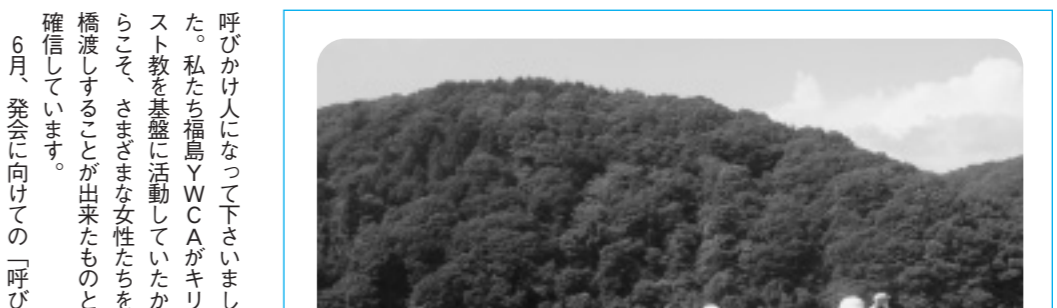
した。講演会や上映会が県内各地で開かれたことで、県内の女性たちにも同様の思いが広がりました。神様は福島の地にこのようにして平和の種を蒔き、土台作りをして下さったと感じました。

定められた時が来たように、今年2月、県内で「女性9条の会」を立ち上げようとの声が上がりました。講演会や上映会に関わった多くの女性たちで準備会が作られ、県内の40名の女性たちが歌っています。

「戦争中軍歌が歌えなかった私たちが、呉空襲・原爆・敗戦を経験して、一気にどんな歌でも自由に歌える時代が来た。うたごえ運動・歌声喫茶・PTAコーラス・合唱団復活・女声コーラス誕生...、時代を追って歌って私たちの記録を、ステージに表現しました。今もなお戦火を交え、飢えに泣く子、民族の争い等々、果てしても希望は続いています。でも希望を持ち続けたい」と戦争ですべてを失った著者が歌をばらまいた、その歌は、空を突き抜けて夢をばらまいた、命の印のように、と星に吊したボエムの歌で終幕しました。

呉YWCAシャロームは、これからも平和の歌を歌い続けたいと願っています。

呼びかけ人になって下さいました。私たちが福島YWCAがキリスト教を基盤に活動していたからこそ、さまざまな女性たちを橋渡しすることが出来たものだと確信しています。



YWCA野尻キャンプ場「ベタウリスタの夏休み」カヌー・カヤックコース 参加者は18才以上。静かな湖でのカヌーは最高です。初めてカヌーにチャレンジした人も、2日目には2時間のカヌートリップ! 湖上めぐりを楽しみました。(東京YWCA野尻環境教育部 嶋結子)

100年史英訳冊子 “Japan YWCA100 Years Striving for Women's Self-Reliance 1905-2005” 発行
昨秋発行された『日本YWCA100年史 女性の自立を求めて』の要約として、各章「概観」と時代背景を英訳したものです。語学クラスや学習会などでもご活用下さい。300円。日本YWCAホームページにも掲載。(www.ywca.or.jp) 問合せ・注文先：日本YWCA (担当：仁田) まで。(E-mail:office-japan@ywca.or.jp)

- 「協力ありがとうございます」 賛助費(以下敬称略)
- 島海百合子 市川美恵
 - 青木基子 五味優子 出かず子
 - 谷山久美子 小泉孝子 阿部方子
 - 土橋克子 島田法郎 八重樫照代
 - 秋枝薫子 村上雅子 有田奎子
 - 柴田静子 井田宏子 本城智子
 - 西村律子 藤純子 中山ふみ
 - 川西薫 島田麗子 中山ふみ
 - 岩島久夫 谷口淳子 阿部喜久子
 - 隈谷優子 田中宏子 田中治子
 - 今地愛子 山田美代 小林喜美子
 - 佐古口清子 奥平せい子
 - 磯古口清子 奥平せい子
 - 阿部有三 村田裕子 八田さと子
 - 和田崇子 中西ト子 加藤三保
 - 大澤千鶴子 都本孝子 町田裕子
 - 吉田紀子 船本弘毅 中平多恵子
 - ミケレット 桑本子 松岡朋子
 - 牛ケ原 赤木子 有田博子
 - 藤原純代 梅林宏道 三木ふみ
 - 勝山久仁子 藤川淳子 池田世子
 - 山本鉄子 奥田淳子 西野和子
 - ギンジュ陽子 比佐登子
 - 鈴木みき 吉田瑞都 茨川光郎
 - 清井よし 赤石めぐみ
 - 清水よし 朽木めぐみ
 - 小山内まり 永吉由子 瀬戸光枝
 - 鈴木栄 木田みな子 大竹ゆ子
 - 神山妙子 村松孝子 西田和子
 - 黒木順子 梅本弘子 本橋育子
 - 三宅文子 崔善愛
 - 一級寄付 大川孝子 益子恵孝子 市来小百合
 - オリブの木募金 福井由紀子 石川豊子 小泉由子 有限会社信和ハウス・谷池教子 西田那都花 巴田那都花
 - パレスチナYWCA支援募金 本橋育子
 - ジャワ島中部地帯養育院募金 手嶋千早 神門佐子 吉岡久乃 高井昌子 訓詁YWCA 京都YWCA 浜松YWCA 平塚YWCA 神戸YWCA

インフォメーション

▼2006年度YWCA/YMCA 合同祈祷週のお知らせ 期間：11月12日(日)～18日(土) テーマ：Changing Lives, Changing Communities (生活を変革し、コミュニティを変革する)

憲法9条を世界の宝に！

行ってきました、バンクーバー！ 世界平和フォーラム報告

世界各地で平和活動に取り組むNGOが集い、核兵器廃絶や紛争解決などについて話し合う「世界平和フォーラム」が6月23日、28日カナダのバンクーバーで開催され、世界中から約5000人が参加した。最終日に採択された「バンクーバー平和宣言」(2006年6月23日)の基本要項10項目には、「世界の各政府に対して、『憲法』中の戦争放棄する(例えは日本の9条のように)この1項目が盛り込まれた。この宣言は世界平和フォーラムの報告で『世界平和宣言』(日本国憲法9条)に対する海外からの声を紹介する。



©日本国際法律家協会

世界初の試み、私にも初めての経験。第1回世界平和フォーラム(WPF)に参加し発表することになった。しかも2歳の娘を丸1週間夫と保育園に託していったので、家族にも初めての経験。

6月23日、28日まで開かれたWPFはカナダバンクーバー市の「平和と正義委員会」が市民団体・NGOに呼びかけて実現した。参加者は約5000人、24日のピースパレードも色とりどりで賑やか、かつ街の人々にも歓迎されていた写真。

さてWPFでの発表は、昨年9月横浜YWCAで実施した核軍縮・平和教育ワークショップ参加者から生まれた平和教育グループが中心となり行った。テーマは憲法9条について。9条の意義を国際的な視点から伝えたかったので、不戦の誓いとしての歴史的意義や、交戦権・

自衛権(「国家による戦争の口実」をめぐり世界史に位置づけられた)9条の先進性を柱とした。参加者の中には、9条についてよく知っている人から初めて聞いたという人まであった。9条改定と米軍再編の動きについても説明したが、日本と韓国で平和運動の経験がある米女性からは、米市民に米軍の問題をもっと知らせる必要があると言われた。そのためには米国の平和団体や市民団体とのネットワークが必要であり、日本から能力を高めてとのアドバイス。日本のYWCAでもぜひそういうリーダーシップトレーニングをしましょうよ！

9条については日本の他NGOによる大きなシンポジウムが開かれ、最終日にバンクーバーに寄港したピースボートの「Global 9 Campaign」とも呼

んで、WPFの平和アピールにも「各国政府による憲法上での戦争放棄事項(例えは日本の9条のように)」という項が入った。9条が世界に広がっていきますように！

ワークショップ(WS)はさまざまなテーマで25日、27日の3日間に集中して開催されたので、つまみだけでも全部を見て回るのは不可能だった。そこで平和教育に焦点を絞った。その中で私が参加したのは、ヒバク3世の若い日本人女性が今年から単身アメリカの小学校で行っている「Never Again Campaign」のWS。地の英語教育での平和教育を考えるWS、音楽を通して平和運動を広げようとするイギリスの若者のWS、コスタリカの「平和隊」(平和な心)の状態が知性を開花させること、日本の平和にかながらを科学的に証明し、教育現場でその方法を普及させようとしている

団体。コスタリカ大統領の支援も厚い。WS、中国系カナダ人の人々がやっているアジア太平洋戦争の歴史をカナダの高校の歴史の先生に学んでもらうスタディツアーのWSだった。この最後のWSで知り合った中国の方には「戦中の日本の加害責任について、日本で真摯に意識高く活動している人があるのはとてもうれしい。でも同時に多くの中国人は日本政府に怒っているし、日本の被爆者運動にも複雑な気持ちを抱く」と言われた。日本で戦争被害の記憶は刻まれても、加害の記憶が抑圧されてきたのと表裏をなしているように感じた。

バンクーバーには海外で唯一のとても活発な「9条の会」があり(会員100名)、アジア系コミュニティも大きい。平和運動の向こう側の西岸の人たちへと広げたネットワークもこの中にはないかという指摘もある。次回WPF開催は2008年に韓国済州市が名乗りをあげているので、実現してほしいからぜひ参加・発信を！

東京YWCA 西文字

ワークショップ

「キリスト教基盤と委員会組織運営」

を終えて

リーダーシップ養成委員会主催

7月1日(土) 東京YWCA 砂土原センターにおいて、「キリスト教基盤と委員会組織運営」ワークショップを行なった。参加者は8地域のYWCAから23名。開会礼拝(奨励者は札幌YWCA会員・牧師の田中真希子さん)、発題Ⅰ「キリスト教基盤と会員運動」(尾崎裕美子 東京YWCA総幹事)、発題Ⅱ「組織運営について」(坂口和子 東京YWCA会長)、スタンプ「チェックウーマン」(俣野尚子 作シナリオ)、グループ別話し合いとまとめが主なプログラムの内容であった。

女組織の重責を担う立場にある中で、地域センターで体験した合宿活動の現場で生きているキリスト教基盤について語られた。たとえば幼児から大人への一貫した人間教育、会員活動の根幹を流れる平和実現へのたゆまない歩み、そしてオープンメンバースhipの意味と会議の前の関係の必要性があること。さらにYWCAが大きな変化を迫られている今こそ、キリスト教を基盤に置く団体の存続の意味を考えたい。これらの重要な事柄が暖かい、ユーモラスな語り口によって聞く者の心に浸透した。

坂口さんによる発題「組織運営について」は、前もって配布済みの資料「YWCAの委員会運営」に基づき、最近、非営利国際NGO説明責任憲章が批准(世界YWCAも署名)され、活動と運営に対する説明責任と透明性を果たす、最高の倫理基準が確立したことが説明された。これによって、内外ともに「YWCAの活動の目的」「果たすべきミッションは何か」への実現に向かっている委員会がはたすべきことの基準をどこに置こうかが重要となり、日本のYWCA活動の透明性が求められてくる。組織運営の要である「委員会のあり方」と会員意識の向上、す

営について」は、前もって配布済みの資料「YWCAの委員会運営」に基づき、最近、非営利国際NGO説明責任憲章が批准(世界YWCAも署名)され、活動と運営に対する説明責任と透明性を果たす、最高の倫理基準が確立したことが説明された。これによって、内外ともに「YWCAの活動の目的」「果たすべきミッションは何か」への実現に向かっている委員会がはたすべきことの基準をどこに置こうかが重要となり、日本のYWCA活動の透明性が求められてくる。組織運営の要である「委員会のあり方」と会員意識の向上、す

営について」は、前もって配布済みの資料「YWCAの委員会運営」に基づき、最近、非営利国際NGO説明責任憲章が批准(世界YWCAも署名)され、活動と運営に対する説明責任と透明性を果たす、最高の倫理基準が確立したことが説明された。これによって、内外ともに「YWCAの活動の目的」「果たすべきミッションは何か」への実現に向かっている委員会がはたすべきことの基準をどこに置こうかが重要となり、日本のYWCA活動の透明性が求められてくる。組織運営の要である「委員会のあり方」と会員意識の向上、す



安恵日に、イエスはある会堂で教えておられた。そこに18年間も病の靈に取りつかれていた女がいた。腰が曲がったまま、どうしても伸ばすことができなかった。イエスはその女を見て呼び寄せ、「婦人よ、病氣が治った」といってその上に手を置かれた。女は、たちどころに腰がまっすぐに成り神を賛美した。(ルカによる福音書第13章10、13節)

18年間も腰が曲がった状態にあったこの人は、「障害」を負う者として、また女性として二重・三重の差別を受けてきた。これは昔のことではなく、今でも起きていることです。イスラム国であるパキスタンでは、女性がレイプ被害に遭っても、4人の成人男性の目撃者が証言しないとハンド法によって姦淫罪に問われ罰せられます。今まで女性たちは、泣き寝入りするしかありませんでしたが、今回勇気ある女性が訴えたことにより、政府は法改正に向けて重い腰を上げました。

アジアでは、家長長社会によって女性は人権を奪われ、何重もの苦しみを受け、ちょうど聖書の女性と同じように腰が曲がったような状態に置かれています。腰が曲がり、苦しんでいた女性がイエスと出会うことによってエンパワーされ、一人の自立した女性として歩み出したことが明示されています。

大津恵子 (H.E.L.P.前レクチャ)

養成委員会は今回の企画のほか、キリスト教基盤の理解を深めることを目的に冊子の作成に取り組んでいる。「キリスト教の世界観」(講師小室尚子さん05年5月実施)の講演記録と合わせて、全国総会までに完成を目指している。

リーダーシップ養成委員会委員長 大川孝子

あなたのチャングム度 バランスシート

金香百合作成・無断転載不可

I 夢・希望・信条・信念力・スピリチュアリティ (/20)	
①お金や権力にとらわれない正義感や信条がある	0・1・2・3・4
②希望や夢をいつも言葉にし、こころに描いている	0・1・2・3・4
③夢や希望を実現するために小さな努力を毎日重ねている	0・1・2・3・4
④自分の夢や希望は人との出会いの中でつくられてきた	0・1・2・3・4
⑤いつも自分自身や亡き人々と対話し自分の言動を調整する	0・1・2・3・4
II 師匠・友人・ライバル・恋人などの人間力 (/20)	
①親の生き方からたくさんのかんがえ、学んだ	0・1・2・3・4
②血縁以外で、人生の師匠だと思える人がいる	0・1・2・3・4
③どんな状況でも、自分を応援してくれる友がいる	0・1・2・3・4
④切磋琢磨してがんばろうと思えるライバルがいる	0・1・2・3・4
⑤自分の夢も信念もすべてを応援してくれる恋人や配偶者がいる	0・1・2・3・4
III 仕事・勉強・技術力 (/20)	
①与えられた仕事に対しては、まず誠実ががんばっている	0・1・2・3・4
②どんなささやかな仕事にも意義や喜びを発見していく	0・1・2・3・4
③どんな段階でも、仕事での自分なりの目標をいつももっている	0・1・2・3・4
④仕事で悪徳な金儲けや権力欲や復讐欲をかなえようと思わない	0・1・2・3・4
⑤人一倍、からだを動かしてよく働かし、勉強する	0・1・2・3・4
IV 問題解決・回復・転換力 (/20)	
①問題や課題の大きさに絶望しても、また夢や希望を見出す	0・1・2・3・4
②どんな状況からもはいあがる (レジリエンス)	0・1・2・3・4
③自分はラッキーだと思う (運を味方につけている)	0・1・2・3・4
④いろいろな人助けをしていて、知らぬ間に人脈ができていた	0・1・2・3・4
⑤アイディアや方法を状況に応じて柔軟に発想転換できる	0・1・2・3・4
V 心身のバランスや健康・総合力 (/20)	
①豊かな自然や人間関係の中で育ち、生きてきた	0・1・2・3・4
②料理がうまい、「味を描ける！」	0・1・2・3・4
③病氣やけがを含めてからだを大切に予防やケアをしている	0・1・2・3・4
④よく笑う	0・1・2・3・4
⑤私OK、あなたOK、自他を大切に、いのちを大切に生きている	0・1・2・3・4
合計	/100点

ピースリボン裁判 全面棄却



なわちリーダーシップの養成が急務となる。かつて女性団体の著名なリーダーから「YWCAは委員会制度によってしっかりとした運営をしている団体」と評価を受けたことがある。これはキリスト教基盤が生み出したYWCAの財産である。

スタンツでは、実際に参加者が朗読して演じた委員会のモデルを通して委員の役割を学び、これらの発題内容の理解を深めるのを助けた。

去る7月26日東京地裁703号法廷は静かな緊張に満たされていた。通称「ピースリボ」裁判の判決が出る日である。9時45分、原告佐藤美和子さんと担当弁護士2名が着席。直後に1本の白いバラが手渡された。支援の会からの励ましである。55分、引き続き弁護士会館ロビーで報告会は「不当判決」の木札

を囲み、担当弁護士判決分析と関連資料が配布された。①国旗掲揚②市教委の聞き取り③都教委の聞き取り④文書訓告⑤君が代ピアノ伴奏⑥学級担任要求⑦朝鮮半島発言⑧音楽担任はずし⑨勤務地異動の9項目に関し、いずれの事柄も原告の申し立て通りの事実と認めつつも、「強要があったとは認め難い」の理由で全面棄却に至ったという。

それ以後君が代ピアノ伴奏強要音楽担任はずしなどの厳しい状況に立ち向かった原告が、現在希望する学校に留まらず、勤務地変更を全権なくされている状況そのものがすべてを明白に語っている。これは正に憲法に保証されている「思想・信教の自由」「平和のうちに生きる権利」の侵害である。

「ゆきやなぎ」が好きだという佐藤さんが、この木のように重圧をしなやかに跳ね返し立ち上れる日のために祈りたい。

東京YWCA 鈴木晶子

内閣総理大臣 小泉純一郎様

靖国神社参拝に強く抗議します

今日、2006年8月15日に小泉純一郎内閣総理大臣が靖国神社に再度参拝したことを遺憾に思い強く抗議します。

靖国神社はかつては軍国主義の精神的支柱でした。現在もその根本精神は変わっていません。内閣総理大臣が靖国神社に参拝することは戦争を美化し、戦争を肯定する行為だといわざるをえません。また、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し」成立した日本国憲法の「平和主義」の精神を否定すると共に、アジアの人々に大きな不信任感を抱かせています。

2005年9月30日、大阪高等裁判所は、内閣総理大臣の靖国神社参拝について「国内外の強い批判にもかかわらず、参拝を継続しており、国が靖国神社を特別に支援している印象を与え、特定の宗教を助長している」として、憲法第20条の「国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教活動もしてはならない」に違反していると違憲判決を下しました。にもかかわらず、内閣総理大臣として靖国神社を参拝したことは、日本国憲法第99条の國務大臣、国会議員などの憲法遵守義務違反です。

日本YWCAは、アジア太平洋戦争の歯止めになりえなかったことを深く反省して、戦後は日本の加害の歴史を直視し、特に東アジアの人々と共に歴史認識を共有し相互の信頼関係を築くこと、そのためにも戦争を放棄した日本国憲法を守る活動を進めています。その立場に立って私たちは、日本政府はアジア太平洋戦争の加害に対して正式に謝罪と補償を行い、アジア諸国と信頼関係を築き、平和を構築していく責任があると考えています。

平和を求める世界の人々に不信任をもたらし、歴史的にも逆行した、靖国神社参拝に強く抗議します。

2006年8月15日 日本キリスト教女子青年会 (日本YWCA) 会長 青木恵子 総幹事 川端国世

いま危機に瀕する第9条を皆さんが守るべきときなのです。「日本人にとって大切だから」というだけではありません。第9条は、ひとり日本国を守っているだけではないのです。地球上のすべての人にとっての宝物。そして世界中の人々にひとすじの光を与え、励ましてきたのです。私はアメリカ人です。アメリカにこそ、第9条がほしい。いや、人類がこの核兵器・大量破壊兵器の時代を生き延びるために、地球上のすべての国に第9条があってほしいと願います。

アレン・ネルソン (元アメリカ海兵隊員)「そのとき、赤ん坊が私の手の中に」(憲法9条・メッセージ・プロジェクト編集・発行 http://www.k3.dion.ne.jp/~k-9mp) より

日本国憲法9条は、軍国主義と武力勢力に基づく私たちの社会を協力と平和に基づく社会に変えるために活動している私たちすべてにとっての希望です。私たちはどの国の憲法にも、偏狭な利益のために他国を侵略するために軍事的手段を用いたり戦争を行ったりすることをきっぱりと放棄することを書き入れたいのです。

エディス・バラントイン (婦人国際平和自由連盟WILPF長老)「INTERJURIST」153号(日本国際法律家協会発行)より

*日本国際法律家協会は、9条の理念を実現していく国際的な市民の連帯を強めるため、「憲法9条世界会議」を08年春に開催することを目指して、この会議への参加を海外の法律家や市民に呼びかけている。

「もし我々が絶えず恐怖にさらされるならば、人間性を保持できるだろうか?」
— アレキサンドル・ソルジェニーツィン —

戦後日本が軍隊を保持しない道を選んだことを知った時、これで世界の運命も好転し始めるだろうと期待したことを記憶しています。ここに「正義と秩序を基調とした国際平和」を希求し、「戦力を永久に放棄」し、人間性回復への希望を高らかに謳う国家が生まれたと…。この崇高な目標が達成されるならば、いつの日か地球規模で恐怖のない社会を実現できるにちがいない。日本は平和への最前線を行く先駆者だ、私はそう考えていました。ですから、その規模・装備・予算のすべてにおいて最大級の軍隊が「自衛隊」と称して日本に存在することを知った私の落胆は言葉に尽くせません。憲法9条は戦後日本人に押しつけられたものと言うなら、この国の理想・本心は一体どこにあるのでしょうか? それは9条の廃止を推進する現政権の思惑の中にあるのでしょうか? もしそうならば日本の国民はいまだ一度も非武装・絶対的平和への希求など持たなかったこととなります。

デビット・イスラスコックス (日本美術史研究者、メキシコ出身、東京在住)